

世界経済フォーラム（ダボス会議）における安倍政権の政策への評価について

平成 25 年 2 月 5 日

内 閣 府

- 冒頭の安倍総理の TV 参加及び甘利大臣の 1 月 26 日のダボス会議への出席を通じ、アベノミクスへの関心の高さと、安倍内閣の日本経済再生に向けた取組が国際的に高く評価された。アベノミクスの内容は、国際的にもかなり理解されている。
- 甘利大臣からは、安倍内閣の経済財政政策の特徴である大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の三本の矢の同時展開等について説明するとともに、日本経済にとってのデフレ脱却の重要性、日銀との共同声明の意義を強調。
- 一部には、為替レートの切下げ競争をしているのではないかといった懸念や、成長と財政再建との整合性についての報道があったが、参加者からは、日本の政策を支持する意見が表明され、一部の誤解は解けたものと考えられる。

「世界経済見通し」セッション（26 日午後）における各国・各機関の要人発言

- **OECD・グリア事務総長**：日本が成長へ向けた取組を進めていることを歓迎する。
- **英フィナンシャル・タイムズ紙・ウォルフ経済論説主幹（司会）**：アベノミクスは、ポリシー・レボリューション（政策の革命）である。
- **IMF・ラガルド専務理事**：（先進国はさらに金融緩和を進めるべきか。また、IMF は各国、特に米国、EU、日本の採っている政策に賛成かとの司会からの質問に対して答える中で）緩和的な金融政策は成長を支えるために必要だ。
- **カナダ銀行・カーニー総裁**：日本の政府と日銀の共同文書は、デフレ脱却のための取組として歓迎すべきものである。日銀と日本政府の関係は、カナダ中銀とカナダ政府の関係と同じである。

## バイ会談や他のセッションにおける各国・各機関の要人発言

- **IMF・ラガルド専務理事**：日本の新たなマクロ経済政策・金融政策については、公式の場で非常によいと言っている。2%とこれまで（1%）より高い物価上昇率目標にしたことは大変結構であり、金融緩和も正しい方向。
- **OECD・グリア事務総長**：日本経済は長年デフレに苦しんできた。2%のインフレ目標は重要なプログラムである。金融政策と為替レートの問題については、微妙なバランスが求められる。日本としては正当な自衛手段だと思う。
- **英フィナンシャル・タイムズ紙・ウォルフ経済論説主幹**：日本の政策は安倍政権になってシフトしており、これについて支持する。金融政策について行おうとしていることは絶対に正しい。これまで日銀は自分たちのマンデートをしっかりと行ってこなかった。基本的な方向性は正しいので成功して欲しい。
- **コロンビア大学・サックス教授**：為替相場については、円はこれまで過大評価されていた。現在行おうとしている金融政策は正しい。批判もあると思うが、耐え抜いて進めていってほしい。

－以 上－